

ふれあいセンター「スズカケ」オープンから・・・

ふれあいセンター「スズカケ」が4月1日にオープンしました。スタッフ一同は町民の皆様に施設のことを知っていただこうと、あの手この手で宣伝活動に努めてまいりました。その甲斐あってか4月の利用者482人から、5月の利用者はうなぎ登りに増え1,926人の利用、また6月はちょうど2,000人の利用でした(学童保育数846人と併せると何と2,846人の利用です)。この施設は年中無休(年末年始のみ休み)で、町民の皆様の利便性を考え、朝8:30から夜の9:30まで13時間開いております。夏は冷房、冬は暖房が効き、お茶は飲み放題、本格コーヒーは50円で何杯でも飲めます。グループで食材を用意すれば、昼食や夕食だって作って食べられます。

また、キッズスペースや授乳室も用意されており、連日、近所の若いママさんや幼児の集いの広場となっております。まさに、高齢者の憩いと健康増進の場、放課後の学童保育の場、乳幼児の遊びや保護者の子育て・交流の場、町民の皆様の学習・発表の場など、多世代の人が集う多機能・多目的な施設として活用されております。そして、子ども達にシルバー世代の方々から知恵や経験を伝授する「プラチナキャリア教育」の実践や、地域住民の連携による見守り活動、医療や介護などの様々な相談窓口の機能(地域包括支援センターの総合相談支援など)を持たせるなど、これらを有機的に展開させることにより、まさに乳幼児から高齢者までの世代の垣根を越えた交流の場として、2025年問題に対する取り組みとして広がりある地域コミュニティの活性化を図っていくことを目指しております。このことにより医療

費・介護給付費の抑制につながれば、町民みんなが健康で、幸せになれます。こうしたコンセプトで造られた施設としては、群馬県内初です。

この間、群馬テレビ「35市町村長に聞く」という番組の中で、県の町村会長である甘楽町の茂原町長が、本年の甘楽町が目玉政策として、この本町の取り組みと同じ事をおっしゃっておいりました。後に追従する市町村があるという事は、先駆けてきた本町の誇りです。特に、県内でも4期目の大ベテランである甘楽町の茂原町長に言っていただけの喜びは、何ものにも代え難いものです。茂原町長に確認させていただいたところ、本町が既に始めていることは、全く知らなかったそうです。

本町では、この「スズカケ」と同様の施設の建設を、今年度、西小学校西側の学童保育所建替え事業として行います。地域住民連携の見守り活動、医療や介護などの地域包括支援センター総合相談支援等、役場の別館としての機能を持たせようと考えております。また、群馬県も人口増加政策に力を入れている中、本町においても県の都市計画課と協議を行いながら都市計画法の拡大解釈による住宅造成策を進めていきたいと考えております。ますます夢が広がるふれあいセンターが、地域の皆様に愛される施設として、今後大いに活用されますよう願っております。

平成29年7月18日

明和町長 富塚もとすけ